

平成19年秋田県年齢別人口流動調査結果〔速報〕

(平成18年10月～平成19年9月の人口動態)

平成19年11月
秋田県学術国際部調査統計課

県では、秋田県年齢別人口流動調査報告要綱（昭和56年施行）に基づき「秋田県年齢別人口流動調査」を実施し、国勢調査人口を基礎として、その後の出生児数、死亡者数、転入・転出者数を加減して毎月1日現在の市町村別、男女別人口の推計を行い、さらに、毎年10月1日現在で過去1年間の各市町村年齢別、男女別人口の動向をとりまとめています。

今回まとめたのは、平成18年10月1日から平成19年9月30日までの1年間の人口動向並びにそれに基づく平成19年10月1日現在の人口・世帯数です。なお、この結果の詳細は、総務省「推計人口」と合わせて「平成19年 秋田県の人口」としてまとめる予定です。

〔算出方法〕

- ・ 県 の 人 口 = 平成17年国勢調査の県人口 + (県内への転入者数 - 県外への転出者数) + (出生数 - 死亡数)
- ・ 各市町村の人口 = 平成17年国勢調査の各市町村人口 + (県内への転入者数 - 県外への転出者数) + (出生数 - 死亡数) + (県内他市町村からの転入者数 - 県内他市町村への転出者数)
- ・ 県内市町村間における転入・転出については届出に時間的ずれがあるため、県内転入者数の合計と県内転出者数の合計とは一致しない。従って、各市町村の合計人口と県人口とは一致しない。
なお、人口及び世帯数には外国人を含む。

◎目次

〔結果の概要〕	(ページ)
1. 県総人口	2
2. 県年齢別人口	3
3. 市町村別人口	5
4. 世帯数	6
〔統計表〕 目次	7

※ このことについての照会は次へ願います。
秋田県学術国際部調査統計課
人口・教育統計班 018-860-1258

[結果の概要]

1. 総人口

平成19年10月1日現在の秋田県の総人口は**1,121,300人**で、平成18年10月から平成19年9月までの1年間で**12,736人**（1.12%）減少した。

人口の増減数及び増減率を平成18年(平成17年10月1日～18年9月30日)と比べると、減少数は1,271人多くなり、減少率では0.12ポイント上昇した。

平成19年の出生者数は**7,617人**で、前年より38人減少し、死亡者数は**13,532人**で、前年より48人減少した。この結果、自然動態では5,915人（0.52%）の減少となった。

また、平成19年の県内への転入者数は**15,001人**で、前年より560人減少し、県外への転出者数は**21,822人**で、前年より721人増加した。この結果、社会動態では6,821人（0.60%）の減少となり、減少数で1,281人、減少率で0.12ポイント前年を上回った。

表1 平成8年以降の動き

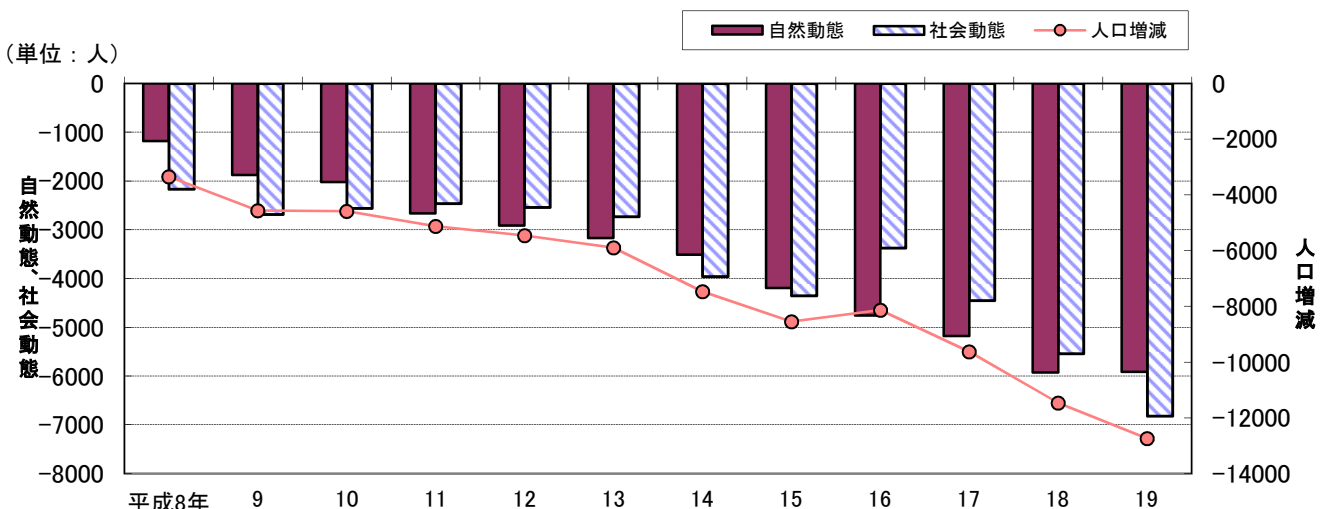
(単位：人、% △はマイナス)

年次	総人口	純増加		自然動態				社会動態			
		増加数	増加率	出生	死亡	自然増加	増加率	転入	転出	社会増加	増加率
8	1,210,320	△3,347	△0.28	9,752	10,933	△1,181	△0.10	19,645	21,811	△2,166	△0.18
9	1,205,759	△4,561	△0.38	9,698	11,573	△1,875	△0.15	19,623	22,309	△2,686	△0.22
10	1,201,178	△4,581	△0.38	9,506	11,528	△2,022	△0.17	19,711	22,270	△2,559	△0.21
11	1,196,054	△5,124	△0.43	9,263	11,929	△2,666	△0.22	19,184	21,642	△2,458	△0.20
12	(1,190,596) ※1,189,279	△5,458	△0.46	9,095	12,011	△2,916	△0.24	18,837	21,379	△2,542	△0.21
13	1,183,380	△5,899	△0.50	8,778	11,948	△3,170	△0.27	18,817	21,546	△2,729	△0.23
14	1,175,910	△7,470	△0.63	8,619	12,131	△3,512	△0.30	17,944	21,902	△3,958	△0.33
15	1,167,365	△8,545	△0.73	8,307	12,503	△4,196	△0.36	17,562	21,911	△4,349	△0.37
16	1,159,229	△8,136	△0.70	7,962	12,723	△4,761	△0.41	17,715	21,090	△3,375	△0.29
17	(1,149,602) ※1,145,501	△9,627	△0.83	7,851	13,027	△5,176	△0.45	16,987	21,438	△4,451	△0.38
18	1,134,036	△11,465	△1.00	7,655	13,580	△5,925	△0.52	15,561	21,101	△5,540	△0.48
19	1,121,300	△12,736	△1.12	7,617	13,532	△5,915	△0.52	15,001	21,822	△6,821	△0.60

(注) ・総人口の※は国勢調査、その他は県算出による人口で各年10月1日現在である。

・純増加、自然動態、社会動態は、住民基本台帳等登録者の増減数（1年間）であり、各年とも県算出による数値である。

図1 自然動態、社会動態、人口増減の推移



2. 年齢別人口

平成19年10月1日現在の本県の人口を年齢3区分別に前年と比較してみると、0～14歳の年少人口は135,276人で、3,764人(2.7%)減少、15～64歳の生産年齢人口は669,904人で、13,069人(1.9%)減少、65歳以上の老年人口は315,607人で、4,097人(1.3%)増加した。

年齢3区分別人口の割合は、年少人口が12.1%、生産年齢人口が59.7%、老年人口が28.1%となり、前年に比べ、年少人口が0.2ポイント、生産年齢人口が0.5ポイントそれぞれ低下し、老年人口が0.6ポイント上昇した。

年少人口指数は20.2、老年人口指数は47.1、年少人口指数と老年人口指数を合わせた従属人口指数は67.3となっている。これを前年と比べると、年少人口指数が0.2ポイント低下し、老年人口指数は1.5ポイント、従属人口指数は1.3ポイントそれぞれ上昇した。

また、老年化指数は233.3となり、前年を9.3ポイント上回った。

表2 平成8年以降の動き

年次	総人口	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	年齢別割合(%)			従属人口 指数	年少人口 指数	老年人口 指数	老年化 指数
					年少 人口	生産年齢 人口	老年 人口				
平成8年	1,210,320	183,518	779,280	247,364	15.2	64.4	20.4	55.3	23.5	31.7	134.8
9	1,205,759	178,411	771,564	255,626	14.8	64.0	21.2	56.3	23.1	33.1	143.3
10	1,201,178	173,509	763,044	264,467	14.4	63.5	22.0	57.4	22.7	34.7	152.4
11	1,196,054	168,207	756,086	271,603	14.1	63.2	22.7	58.2	22.2	35.9	161.5
12	1,189,279	163,095	746,252	279,764	13.7	62.7	23.5	59.3	21.9	37.5	171.5
13	1,183,380	159,047	736,658	287,507	13.4	62.3	24.3	60.6	21.6	39.0	180.8
14	1,175,910	154,729	726,438	294,575	13.2	61.8	25.1	61.9	21.3	40.6	190.4
15	1,167,365	150,691	716,057	300,449	12.9	61.3	25.7	63.0	21.0	42.0	199.4
16	1,159,229	146,803	708,848	303,410	12.7	61.1	26.2	63.5	20.7	42.8	206.7
17	1,145,501	142,507	694,288	308,193	12.4	60.6	26.9	64.9	20.5	44.4	216.3
18	1,134,036	139,040	682,973	311,510	12.3	60.2	27.5	66.0	20.4	45.6	224.0
19	1,121,300	135,276	669,904	315,607	12.1	59.7	28.1	67.3	20.2	47.1	233.3

(注) 平成12年及び17年は国勢調査、その他は県算出人口による。総人口には年齢不詳の者を含む。

$$\begin{aligned} \text{・年少人口指数} &= \frac{0\sim14\text{歳人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100 & \text{・従属人口指数} &= \frac{0\sim14\text{歳人口}+65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100 \\ \text{・老年人口指数} &= \frac{65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100 & \text{・老年化指数} &= \frac{65\text{歳以上人口}}{0\sim14\text{歳人口}} \times 100 \end{aligned}$$

図2 秋田県人口ピラミッド(平成19年10月1日現在)

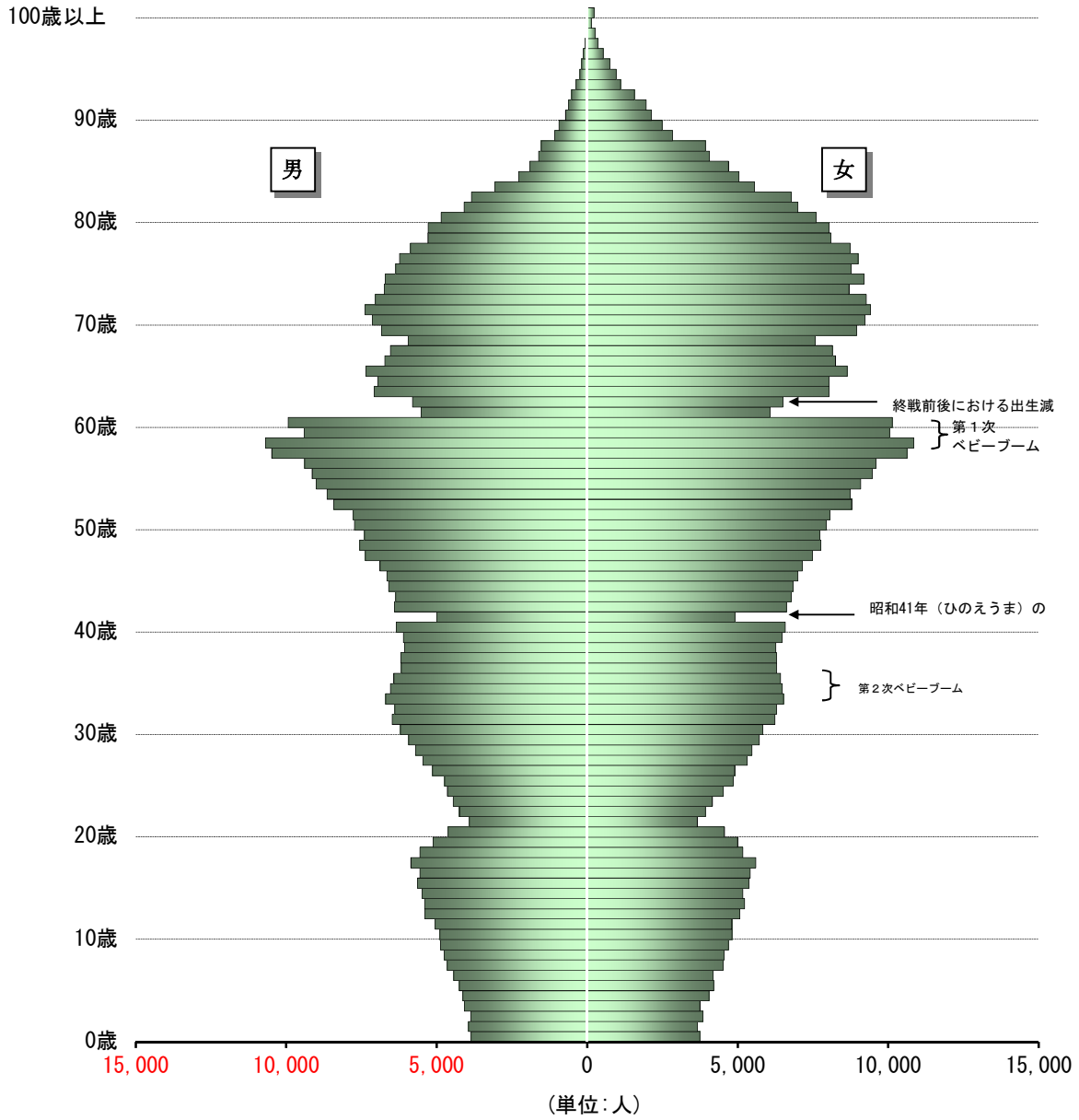
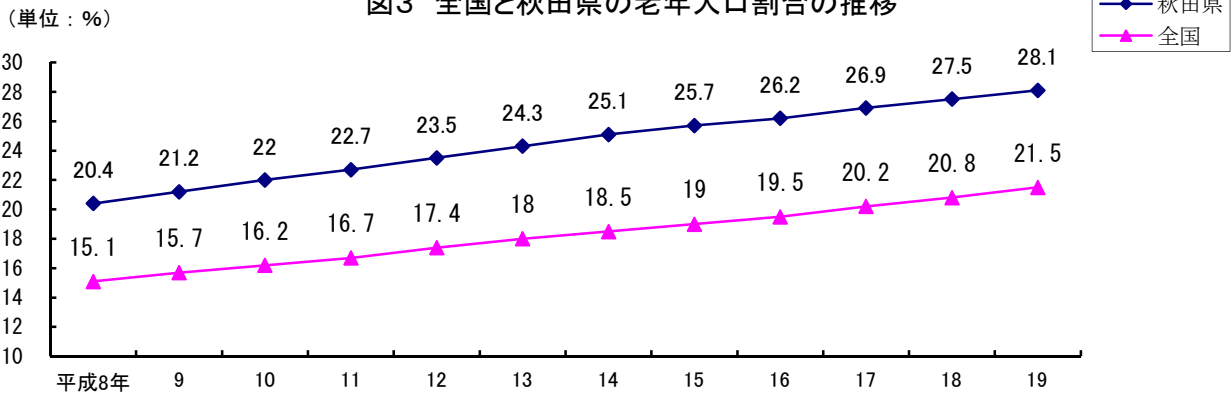


図3 全国と秋田県の老年人口割合の推移



(注) 平成12年及び17年は国勢調査、他は国又は県の算出(19年の全国は概算値)

3. 市町村別人口

平成19年10月1日現在の市町村別人口は、秋田市（329,452人）を最多に、横手市、大仙市、由利本荘市、大館市、能代市、湯沢市と続き、13市で県人口全体の90.0%、秋田市だけで全体の29.4%を占めている。

前年に比べ人口が増加した市町村はなく、25市町村すべてで人口が減少している。減少率が最も高かったのは上小阿仁村（2.98%）、次いで東成瀬村（2.89%）、小坂町（2.31%）などとなっている。

市町村別の人口動態を自然動態と社会動態とに分けてみると、自然動態で増加したのは大潟村1村で、増加率は0.44%である。これに対して、他の24市町村では自然減少となっており、減少率が最も高かったのは上小阿仁村（1.98%）、次いで小坂町（1.38%）、藤里町（1.27%）などとなっている。

社会動態で増加したのは潟上市1市で、増加率は0.02%である。他の24市町村では社会減少となっており、減少率が最も高かったのは大潟村（2.05%）、次いで東成瀬村（1.67%）、五城目町（1.14%）などとなっている。

また、平成19年10月1日現在の市町村別人口を年齢3区分別人口割合で見ると、年少人口割合（0～14歳）の高いのは、大潟村（17.2%）を筆頭に、以下、潟上市（13.5%）、にかほ市（12.9%）などとなっている。生産年齢人口割合（15～64歳）の高いのは、秋田市（64.7%）を筆頭に、以下、潟上市（62.6%）、由利本荘市（59.5%）などとなっている。老年人口割合（65歳以上）の高いのは、上小阿仁村（42.4%）を筆頭に、以下、藤里町（37.4%）、五城目町（35.4%）などとなっている。

表3

人口増減率の大きい市町村（単位：%）

人口増加 市町村	増加率	人口減少 市町村	減少率
—	—	上小阿仁村	2.98
—	—	東成瀬村	2.89
—	—	小坂町	2.31
—	—	八峰町	2.24
—	—	五城目町	2.08

年少・生産年齢・老年人口割合の大きい市町村（単位：%）

市町村	年少人口 割合	市町村	生産年齢 人口割合	市町村	老年人口 割合
大潟村	17.2	秋田市	64.7	上小阿仁村	42.4
潟上市	13.5	潟上市	62.6	藤里町	37.4
にかほ市	12.9	由利本荘市	59.5	五城目町	35.4
秋田市	12.8	にかほ市	59.4	小坂町	34.6
井川町	12.3	八郎潟町	59.2	北秋田市	34.6
鹿角市	12.3	大潟村	59.2		

4. 世帯数

平成19年10月1日現在の世帯数は、**395,822世帯**で前年に比べて911世帯（0.23%）増加した。

これを1世帯当たりの人員で見ると、平成19年は2.83人で、前年に比べて0.04人の減少となった。

表4 平成8年以降の動き (単位：世帯、%、人)

	世帯数	増加世帯数	世帯増加率	1世帯当たり人員
平成8年	378,383	3,562	0.95	3.20
9	382,193	3,810	1.01	3.15
10	385,614	3,421	0.90	3.11
11	389,352	3,738	0.97	3.07
12	※389,190	-162	-0.04	※3.06
13	392,257	3,067	0.79	3.02
14	394,749	2,492	0.64	2.98
15	396,346	1,597	0.40	2.95
16	398,607	2,261	0.57	2.91
17	※393,038	-5,569	-1.40	※2.91
18	394,911	1,873	0.48	2.87
19	395,822	911	0.23	2.83

(注) ・平成12年及び17年の※は国勢調査、その他は県算出による。

・増加世帯数は、届出（住民基本台帳等）のあった増減数（1年間）であり、各年も県算出による数値である。

図4 世帯数の推移

